

一般会計決算審査特別委員会から分担された部分を審査するため、令和2年9月10日に総務生活分科会を開催しました。

認定第1号 令和元年度総社市一般会計歳入歳出決算認定

～結果～

次のような審査の結果、本分科会に分担された部分については、次の観点から可決すべきでないとの異議がありました。

～異議の内容～

備南競艇事業組合負担金について、行政が出資すべきではない。

～質疑～

問：外国人集住都市会議への参加の成果はどうか。

答：国内の13都市の集まりで、県内参加は本市のみである。年々増加する外国人に対し、各市の多文化共生施策の取組を見聞きでき、また、組織的な活動として、意見を集約し国への要望等を行うことや今後の施策の在り方などの説明を国から受けることができている。

問：雪舟生誕地公園整備の進捗状況はどうか。

答：雪舟生誕地公園の工事は順調に進んでおり、建築工事は約9割、造成工事は3割から4割程度完成している。今年11月に雪舟サミットを行う予定のため、同時に公園の完成記念イベントを行いたいと考えている。

問：市の公式ラインは誰が、いつ発信しているのか。また、内容の責任はどこにあるのか。

答：各担当課からの原稿を受けて、市政情報課が、原則として8時30分から19時頃までの間に発信している。内容の責任は各担当課にある。

問：岡山市町村税整理組合負担金はこれからも必要なのか。

答：市税の収納率を上げるため、平成24年度から積極的に税整理組合を活用している。令和元年度は約4,200万円徴収し、支払った負担金は580万円余りで差引き3,600万円余りの効果が出ている。この業務を職員で行うには、人員不足や業務量の増大が見込まれるため、今後もしばらくの間は活用が必要だと考えている。

問：文書配布嘱託員による発送を廃止し、全件郵送の方法に切り替えたことで、約650万円の削減につながっているが、文書管理経費で増額した部分は何か。

答：発送方法の見直しにより事務効率化につながり、大幅に経費を節減することができた。文書管理費経費のうち、増額した部分は発送事務の軽減及び経費節減のために導入した郵便料金計器賃借料のほか、消耗品費及び郵券料である。

問：豪雨災害復興式典は継続してもらいたいが、今後いつまで行うのか。

答：平成 30 年 7 月豪雨災害記念式典については、最低でも 3 年間は実施する。その後は現在未定である。

問：消防設備の整備計画はどうか。

答：車両や資機材の更新は、消防本部が定めている更新計画に基づき、おおむね良好に実施できている。

問：河川増水時に活動する樋門操作員の報酬等について

答：国からの委託を受けての事業であるため、報酬単価は決められている。新しく操作員が変わったときなどは国の担当者から操作説明をしてもらい、ライフジャケットなど必要なものは市で渡している。

問：市税の収納率はどうか。また、差押えに資産の公売は行っているのか。

答：令和元年度の全体の収納率は、96.0%前年度対比 0.5 ポイント増であった。公売については、過去に岡山市町村税整理組合が差し押さえた物件を公売したことはあるが、現在は現金債権を中心とした差押えを行っているため公売等は行っていない。